

10月全校朝会講話

「合わせる」

おはようございます。先週の新人体育大会ではどの部活動も本当によく頑張っていて活躍してくれました。また吹奏楽部は血の滲むような努力の結果、今月末に行われる全国大会への切符を手にしてくれました。後で表彰をしますがそれぞれ、本当に誇りに思います。



さて10月は学校生活の折り返し地点です。生徒会や委員会、係の仕事も前期の人たちから新たなメンバーにバトンタッチされました。そして先週からは合唱コンクールに向けて、学校の中に歌声の響く時期を迎えました。そこで今日は「合わせる」というお話をします。

みなさん、ちょっと頭の中で合唱という漢字を思い浮かべて下さい。合唱とは口を日々合わせると書きます。今、各クラスで一生懸命歌の練習を毎日行っていますね。口を開いて声を出して歌声を合わせることはもちろんですが、本当に大切なのは「心を合わせる」ことです。だからこそ合唱はやりがいがあるし、むずかしい。クラス30数人が心を合わせるのは相当大変です。練習が進めば進むほど、壁にぶつかったり、時にはクラスがばらばらになりかけたり、必ず困難が待ち受けています。でもね、だから合唱は奥が深い。みなさんの一生の中で人と合唱をする機会は限られています。高校に行ったらほとんどありません。どうぞたくさんのお話を聞かせてください。

乗り越えて心を「合わせる」喜びを味わって下さい。

そして後期が始まる学校生活においてもクラスや学年で、部活動でより良い生活が送れるように「心を合わせて」取り組んでください。

先日有名なアメリカンフットボールの指導者の言葉が新聞に載っていました。アメフトは11人でプレーするのですが、「私は11人のベストな選手とではなく、11人でベストになるチームでプレーしているのだ」と言ったそうです。新人戦で優勝したうちの野球部もそうですが、決してスーパープレーヤーがたくさんいるのではなく、9人そろっていい野球が出来た、いいチームだなと思います。クラスや学年や学校も同じです。30何人、200何十人、857人でベストになる学級、学年、学校になるために日々力を「合わせて」頑張りましょう。 終わります。